

第1回科学技術審議会部会・審議概要（5月9日開催）

【次期計画の策定に当たっての検討方法等】

1 視点等

- 短期間と長期間の時間軸から、2本立てで議論。5年間では、これまで醸成されたものを如何に社会実装するかなど。
- 地域については6圏域ごとに、その方策を検討。
- 北海道として、「今後5年間でどう取り組むのか。」についての具現化。如何に現実味を持たせられるかが重要。
現行計画では、「食・健康・医療」と「環境・エネルギー」としている。

2 手法

- 現状分析を行い、世界トップレベル、産業化に近いレベルなどの観点で、対象技術がどこに位置すべきか検証。
- 数値目標（KPI）の実現に向け、フォーカス。「こういう産業をアクセラレーションしたい。」という考えを提示しては。

【産学連携の推進】

- 企業が抱える課題と、大学の研究開発のマッチングが重要であるが、うまく結びついていない。

【研究成果の事業化・実用化】

- 先進的な技術という面からではなく、民間が如何に利用し普及できるという観点が重要。
- 市場規模を見据えた上で、将来的に産業として成り立っていくかという観点が重要。

【人材育成】

- 初等教育などについての議論が必要なのか。科学技術をビジネスとして活用するという観点での検討ではないのか。